



●学会員の著書一覧の内容について

著書一覧の記載事項は、現在の段階では、以下のように考えています。

著書名、副題、著者名、監修者名、出版社名、初版発行年、本のサイズまたは版名、頁数、本の価格、ISBN 記号、および検索のための著者名のカタカナの頭文字です。

一覧表の形式は、今のところ、エクセル形式を考えています。

共著の場合は、著者名を列記しますが、2名共著の場合は、2欄を使って著者名の頭文字表記が2段になるようにします。

著者名が無く、監修者名だけの場合は、監修者のカタカナ名の頭文字を、検索欄に入れます。

故人となられた学会員や、老齢の方の一覧表は、大学の図書館が利用できる方や、豊かな蔵書をお持ちの方のご協力をいただけないとまとめられないと思いますので、ご多忙とは思いますが、公表後に未収録の本がありましたら、先生方の自発的なご協力を、心からお願いいたします。

この著書一覧表は、日本色彩学会の活動範囲の広さを一般に示すとともに、現在の学会員の活動に寄与するところ大であると考えています。 (永田泰弘)

●色、回想：暗さを経験

照度は、人が感じる明るさです。照度計は、本来波長感度分布を比視感度に相似することが必要です。

古くから使われてきたのがセレン式照度計です。感度のピークが550nmに近く面積を広くすれば感度も上がり人が暮らす明るさでは十分、電池不要で電流計だけで測定できる簡易さです。青や赤の光に肉眼より反応しますが、太陽光は500nm付近がピークで青や赤が少なく実用的です。

暗い夜の反射光という極低照度の測定器を依頼されました。人が感じる明るさは、日中は錐状体でピークが555nmの比視感度ですが、暗くなると暗視順応が必要なので杆状体が働きピークが赤方に移動します。

光電効果は、紫外域から青色で起きます。

色素増感技術で赤まで感じる光電子増倍管があるのでワイドバンドの緑フィルターを探して比視感度分布に近づけます。

10Mの光学ベンチを借りて1Mで照度を測り10Mに動かし、100分の1の照度とすることを繰り返します。

十分に暗順応すれば、意外なほど目の感度は良いのですが、最近は十分な暗闇を経験出来ない世界になってきています。 (小川 梓)

●万葉集のなかの色 -5

万葉集の歌は、五言絶句や七言律の「漢詩」に対し、「和歌」と言われ、「倭歌」とも言われた。万葉集の和歌には、長歌、短歌、旋頭歌、片歌の四形式がある。現代に残ったのは、五七五七七の三十一音の短歌である。

旅にして 物恋しきに 山下の
赤のそほ船 沖へ漕ぐ見ゆ

高市連黒人 (巻3-270)

山下の黄葉色の赤丹に塗った船が沖へ漕ぎ出していくのが見えると黒人が歌っている。

王は 千歳に座さむ 白雲も

三船の山に 絶ゆる日 あらめや

春日王 (巻3-243)

白菅の 真野の播原 往くさ来さ

君こそ見らめ 真野の播原

黒人の妻 (巻3-281)

天の原 ふりさけ見れば 白真弓

張りて懸けたり 夜路は吉けむ

間人宿禰大浦 (巻3-289)

風を疾み 沖つ白波 高からし

海人の釣り船 浜に帰りぬ

角磨 (巻3-294)

「しらくも」、「しらすげ」、「しらまゆみ」、「しらなみ」と白の用例を並べて見た。

* 講談社文庫・中西進・万葉集から (永田泰弘)